

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立武中学校

【取組内容①】『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実

授業において、アンケートフォームを活用し、前時の振り返りのための用語のチェックテストを行う。

授業開始

生徒は端末を準備しておく。

「Microsoft Teams」、「Google Classroom」等でフォーム(Google Forms)を配信。

- ・各自問題を解く。
- ・教師は、スプレッドシート上で解答状況を確認。
- ・必要に応じて、何度も解いてよい。

フォーム配信

チェックテスト

(1) 複数の力と同じはたらきをする1つの力を何というか。 1ポイント
回答を入力
(2) 複数の力と同じはたらきをする1つの力を求めることを何というか。 1ポイント
回答を入力
(3) 1つの力と同じはたらきをする複数の力を何というか。 1ポイント
回答を入力

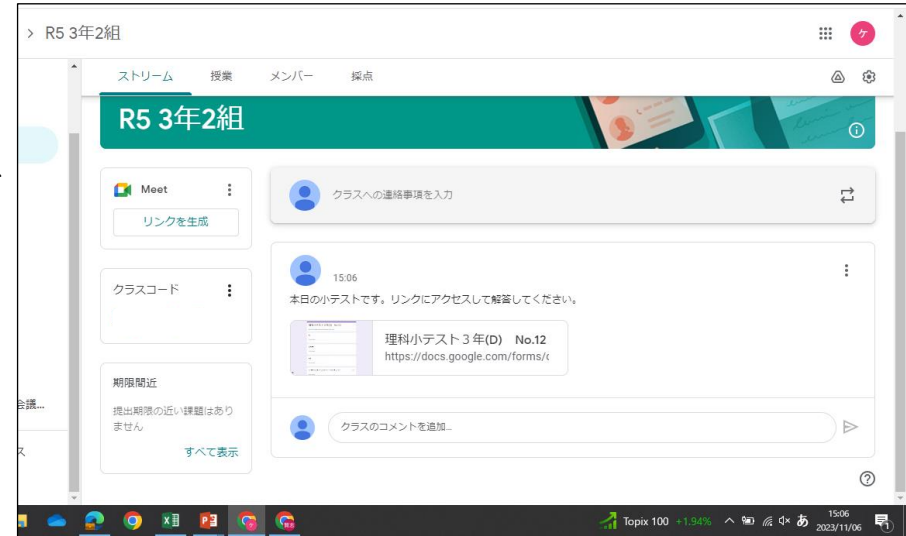
他の人が取り組んでいる間、分からなかったところを教科書等で確認する。

自動採点

成果と今後の取組

- ・生徒たちはタブレット等を使うことが当たり前の感覚になっているので、フォームの解答も素早くできるようになってきた。
- ・漢字を使って語句を覚えることに関しては、今のところタブレットとノートやプリントを併用しながら工夫していきたい。

結果の確認と必要に応じて再チャレンジ



【取組内容③】「端末の日常的な活用としての家庭学習の充実」

端末の持ち帰りの実践と、家庭で取り組むコンテンツとして、復習ができるサイトを作成し、自由に取り組むことができるようにしている。

Google サイト
を利用し学習
サイトを作成

作成されたサイトから各学年の復習ができるフォームにアクセスできる。
自動で採点され、点数も確認できるため、自分の時間があるときにいつでもどこからでも取り組むことができる。

生徒へリンクを
提示

サイトは生徒への限定公開。
・各学年別のページを分野別に整理。
・生徒の取り組み状況は、フォームにリンクしたスプレッドシートで確認できる。

各自でサイトに
アクセスし、問
題に取り組む

<課題>
・問題をランダム表示にしたいが、名前を記入してもら関係上、それができていない。さらなる工夫が必要。

繰り返し問題を
解くことで基
礎学力の定着
を図る

成果と今後の取組
・タブレットを持ち帰って、日常的に学習に取り組むことによってタブレットは学習用具だという生徒の認識の変化を生むことができる。
・復習ができるサイトを他教科に広げ、生徒の取組を促進していけると良いと思う。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

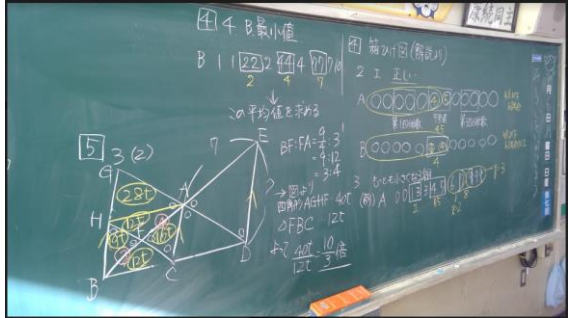
鹿児島市立武中学校

【取組内容③】「端末の日常的な活用としての家庭学習の充実」

端末の持ち帰りの実践と授業やテストの復習ができるようGoogle Classroomを活用し生徒への提示を行っている。

クラスに授業
黒板やテストの
解説など生徒
がいつでも確
認できるように
投稿

- クラス内の生徒への限定公開。
- ・授業の補助的な役割として活用。
 - ・生徒はクラスルームに投稿されたお知らせを確認し、取組を進めることができる。



生徒は授業の
復習のため、投
稿内容を確認

必要に応じて、
クラスコメント
欄へ質問する
ことができる



2 AB = 6cm, BC = 8cm, AC = 10cm の長方形 ABCD があり、∠B の二等分線と CD の延長との交点を E とする。また、BE と AC, AD との交点をそれぞれ P, Q とする。次の問に答えなさい。

(1) 図中に相似な三角形が何組かある。そのうち、2組をかけ。
(例) $\triangle ABP \sim \triangle CEP$, $\triangle APQ \sim \triangle CPB$ など

(2) (1)の証明に必要な三角形の相似条件を書け。
いずれも
2組の角がそれぞれ等しい。

(3) AP の長さを求めよ。
 $\triangle APO \sim \triangle CPB$ より
相似比は $3:4$
よって $AP = 10 \times \frac{3}{7} = \frac{30}{7}$

成果

- ・ノート整理が遅い生徒でも安心して説明を聞いたり、後から確認したりすることができる。
- ・説明を聞くときのメリハリが付き、授業の補助的な役割を十分に果たしていると考えられる。

【取組内容④】「校務の効率化を目指した端末の活用」

職員会議等のペーパーレス化の実現に向けた取組内容

Google Classroom
を活用し、会議用のク
ラスを作成

4月に全職員を会議用のクラスに登録する。
(Meetのリンクがすぐに作成できるため、
リモート会議などにも対応できる。)

会議資料のデータ
をクラス上で配布

企画委員会を経て、会議資料をクラス上に
すぐに投稿することで、会議の前に資料を
確認してから会議に臨むことができる。
(質問事項等、各自で整理してから会議に臨める。)
・生徒の個人情報に関わるものは紙資料で配布
・紙の使用量を削減できる(下記の表を参照)

<用紙の使用量(A4・B4サイズを合算)>

	R4 4月～9月	R5 4月～9月
使用量(枚数)	67,500枚	56,500枚

タブレット端末を使っ
て資料の確認をする



用紙の使用量を前年同期と比較して、約16%削減できた。

成果

- ・用紙を削減できるだけでなく、インクやマスターなど印刷にかかる費用すべてを抑えることができ、予算を必要なところに回すことができ、施設の充実につながる。
- ・印刷や帳合にかかる時間を削減できる。
- ・会議資料を、タブレット端末などで必要な時に必要な場所で確認できる。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立武中学校

【取組内容④】 対話的・協働的な職員研修の取組

研究授業をととした職員研修において、共同編集できるツールを活用して協議を行う。



授業を参観しながら、タブレット端末に書き込んだり、撮影したりするなど、記録を残す。
(実験の結果をタブレット端末で撮影し、学習支援アプリで共有する場面がある)

Microsoft Teamsで
ファイル(Microsoft PowerPoint)を共有。
・グループごとに1スライドを使う。
・テキストボックスを「付箋」に見立て、各自の端末からコメントを入力する。
・必要に応じて画像等も掲載する。
・グループ協議の中で、分類・追記する。

他のグループが編集しているスライドを互いに参照できる環境で協議を進めた。

研修後の感想

・教師主導の授業から生徒主体の授業への転換が必要だと実感した。
・生徒たちはタブレット等を使うことが当たり前の感覚になってきているので、私たちも使うことが当たり前になるように使っていきたい。

